

News IR

IR（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松學舎大学においても、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2017 VOL.03

Contents

- ◆「学生の実態・満足度調査」の結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ◆「学生の実態・満足度調査」結果への対応（予定）について・・・・・・・・ 4
- ◆二松學舎憲章・・ 4

◆「学生の実態・満足度調査」の結果について

平成29（2017）年1月～2月にかけて、本学の1年生、3年生を対象とした、実態・満足度調査を実施しました。

調査では、大学生活全般に関して、選択回答式及び自由記述式アンケートを実施しました。アンケート回答時間は、授業時間前後の15分ほどで、先にアンケートの趣旨説明を行い、その後、学生に回答をお願いしました。

▶**本調査の実施目的**

- ①学生の本学の「学び」に対する満足度を定量的に把握すること。
- ②他大学と比較することで、本学の特徴を定量的かつ可視化して認識すること。

調査回答数は、下記となります。本調査では、他大学（大学IRコンソーシアム49大学平均）を比較対象（以下、ベンチマークと表記）としたアンケート分析となっています。

	文学部 国文学科	文学部 中国文学科	国際政治経済学部 国際政治経済学科	その他	合計
全体 [人]	461	256	314	19	1050
1年 [人]	236	124	181	14	555
3年 [人]	225	132	133	5	495

➤本調査結果の概要

調査により、下記の事柄が明らかになりました。

●学生生活充実度

➤今回、回答項目や対象「上級生」の学年（4年次生→3年次生）に変更があったこともあり、「学生生活は充実していますか。」との質問に対する、「充実している」+「まあまあ充実している」を加えた回答の構成比は、1年次生全体で80.4%、3年次生全体で81.0%と、ベンチマーク（各84.5%、86.2%）をやや下回る結果となりました。

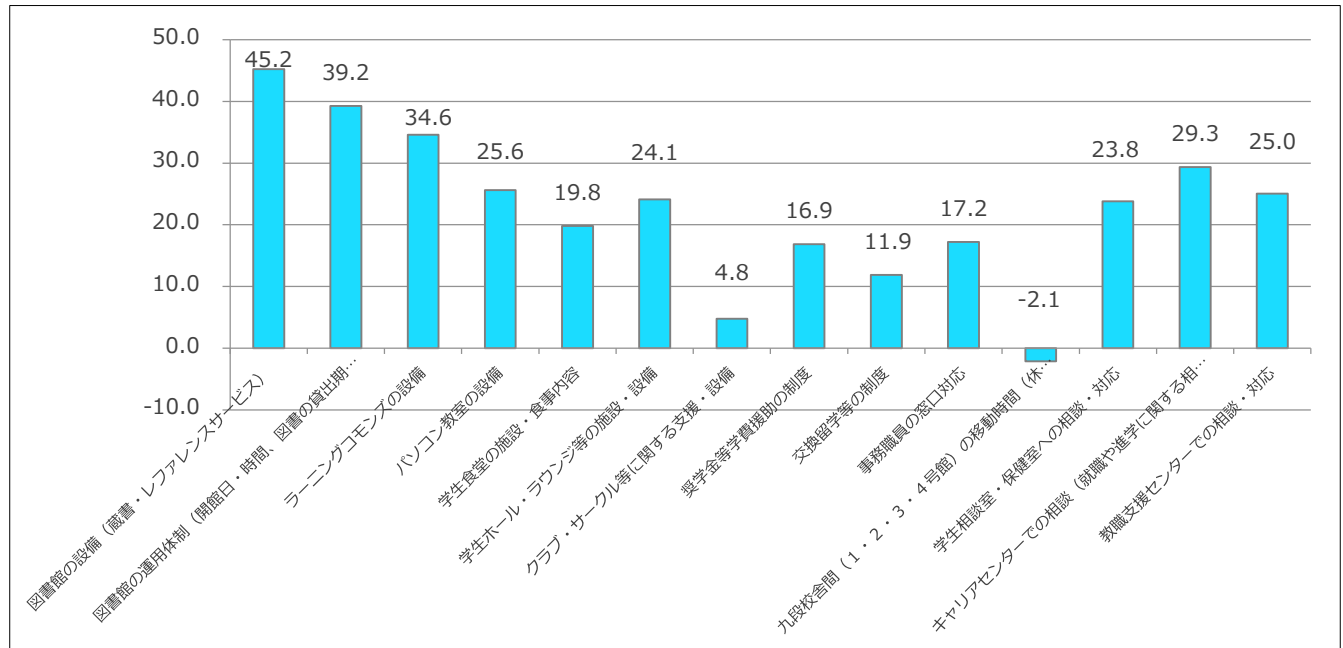
➤「あまり充実していない」、「充実していない」と答えた学生の理由（自由記述）の中から重複するキーワードを抽出すると、都心の狭隘なキャンパスであることから派生する不満理由が大半で、かつ、不満の対象が分散していることが認められました。入学時からある程度予測できる事柄への不満が指摘されており、特に学生生活の中で見過ごされているかもしれない不満はありませんでした。

	「充実している」 +「まあまあ充実している」	うち 「充実している」	うち 「まあまあ充実している」
ベンチマーク（1年次生）	84.5	29.7	54.8
本学（1年次生全体）	80.4	24.5	55.9
ベンチマーク（上級生）	86.2	32.2	54.0
本学（3年次生全体）	81.0	17.8	63.2

（値は%）

●大学の設備や学生支援制度

➤大学生生活のベースとなる大学の設備や学生支援制度に対する満足度では、「九段校舎間の移動時間」、「クラブ・サークル等に関する支援・設備」、「交換留学等の制度」に対する不満が強いとの結果となりました。



D.I.方式【肯定回答割合（とても満足+満足）-否定回答割合（とても不満+不満）】（値は%）

●教育内容等

▶都心の大学として図書館や文化施設、政治機能関係施設へのフィールドワークが行われていることから、グループワーク・フィールドワークはベンチマークに比べ顕著に行われていました。

▶ただ、一人ひとりのレベルで「自分の考え等を発表すること」はベンチマークを下回っており、議論のフリーライダーを容認する学習となっている可能性も考えられる状況であることも分かりました。

▶さらに、授業中、学生同士が議論することもベンチマークに比べ少なく、グループワークも比較的大人数で行われている可能性も示唆されています。

	「頻繁にあった(した)」・「時々あった(した)」の合計値(値は%) ※数字が大きいほどポジティブ			
	ベンチマーク(1年次生)	本学(1年次生全体)	ベンチマーク(上級生)	本学(3年次生全体)
グループワーク、フィールドワーク	50.7	66.0	64.5	70.1
自分の考え等を発表すること	62.7	58.0	74.9	68.7
授業中に学生同士が議論すること	63.8	48.9	64.5	56.6
授業をつまらなく感じる・居眠りをする	-	68.3	-	69.9

▶学生の自己判断ではありますが、概ね「学修成果」は上がっているように窺われます。ただ、数量的スキル、Web情報の利用等に弱さもみられました。

▶基礎ゼミナール満足度をD.I.(肯定回答割合-否定回答割合)で見ると、ベンチマークに比べ2倍にも上る学生が満足しており、また、「あなたの将来に役立つ知識やスキルを学ぶこと」が「頻繁に・時々あった」とする割合も、ベンチマークを上回る結果となっています。

【基礎ゼミナール満足度D.I.】

	D.I.値	昨年との差
ベンチマーク(1年次生)	29.3	2.8
本学(1年次生全体)	63.6	18.7

D.I.方式【肯定回答割合-否定回答割合】(値は%)

【あなたの将来に役立つ知識やスキルを学ぶこと】

	合計値
ベンチマーク(1年次生)	66.6
本学(1年次生全体)	72.8
ベンチマーク(上級生)	69.9
本学(3年次生全体)	72.7

「頻繁にあった」・「時々あった」の合計値(値は%)

▶授業時間外での予習・復習はベンチマークに比べ相対的に少なく、課外学習が進んでいるとは言いがたい状況です。

▶授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりすることも比較的少ない結果となっています。

	「全然ない」の割合(値は%) ※数字が大きいほどネガティブ			
	ベンチマーク(1年次生)	本学(1年次生全体)	ベンチマーク(上級生)	本学(3年次生全体)
授業時間以外に授業課題、準備学習・復習をする	4.6	8.3	6.7	7.3
部活・サークルに参加する	29.2	43.6	45.2	57.0
	「頻繁にあった(した)」・「時々あった(した)」の合計値(値は%) ※数字が大きいほどポジティブ			
	ベンチマーク(1年次生)	本学(1年次生全体)	ベンチマーク(上級生)	本学(3年次生全体)
定期的の小テスト・レポートが課されること	94.5	87.2	93.3	87.2
授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりすること	74.9	73.2	73.3	69.7

◆ 「学生の実態・満足度調査」結果への対応（予定）について

本学では、標記調査結果からでてきた課題に対し、概ね次のような対応を考えています。個々の対応状況等に関しては、今後の『News IR』にてお知らせしたいと思います。

	検証結果の課題	対応案
設備・支援	<ul style="list-style-type: none"> ●九段校舎間の移動時間。 ●クラブ・サークル等に関する支援・設備。 ●交換留学等の制度。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶九段校舎間の移動時間を最小化する「時間割」の検討。 ▶「学生ロッカー」の導入等の検討による設備利便性の向上。 ▶交換留学協定校拡大への組織的検討と対応。
教育内容等	<ul style="list-style-type: none"> ●受身の学生。 ●グループワークは比較的頻繁に行われている一方で、「自分の考え等を発表する」機会は少ない。 ●学生同士の学習的な交流が少ない。 ●数量的スキルの弱さ。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶「公開授業」等のFD活動によって、授業における、学生の「何故」（授業中の質問・アクティブ）を引き出す工夫をブラッシュアップ。 ▶グループワークにおけるフリーライダーに留意した授業展開の検討。 ▶初年次教育（基礎ゼミ共通テキストへのペア・ワーク、グループワーク等の項目導入）をはじめ授業内での学生同士の交流、議論の機会を増やす仕掛けづくり。 ▶授業において、グラフや表を活用して、統計リテラシーを高められないか検討。
課外学習	<ul style="list-style-type: none"> ●Web情報利用が不十分。 ●アルバイトが多く、サークル活動が少ない。同世代間の横の人間関係が育ち難い環境。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶授業において、Web情報を利用した課題付与ができないか議論。 ▶グループワーク、ペア・ワーク等の課外学習を基礎とした課題（レポート・発表）の付与について検討。

【二松學舎憲章】

<建学の精神の発揚>

・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」の発揚に努めます。

<教育・研究の目標達成>

・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
 ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
 ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

<学生生徒支援>

・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
 ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

<社会貢献>

・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
 ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松學舎大学

大学改革推進部 IR推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp